

## 春季特別展

# 野口雨情展 — 童謡・民謡詩人の巨匠 —

本展示会は、県立谷村高等女学校の創立70周年記念として、同校の卒業生によって組織された実行委員会と共同で開催しています。

同校と野口雨情との関係は、先月号の広報で紹介しましたとおり、校歌を野口雨情が作詞したことによります。今回はこの谷村高女について紹介したいと思います。



当時の授業風景

同校の歴史は、明治37年、谷村尋常小学校に高等科卒業女子のために付設された女子補習科にまでさかのぼります。当時の授業内容は、裁縫を主として修身、国語、算術、家事などがあり、甲斐絹の特産地ということから染織や機織の時間も加わりました。

その後、校名は町立谷村実科女学校、町立谷村高等女学校と改称され、昭和6年、県立に移管され谷村高等女学校となりました。

そして昭和8年1月23日、「富士の高嶺の白雪は…」で始まる野口雨情作詞の校歌が文部省の認可を得て制定されました。

昭和10年代になると、谷村高女にも戦争の影が忍び寄り始めました。英語の授業が廃止となり、出征兵士の歡送迎、戦没軍人の墓参りなどを行ない、制服はスカートでしたが、もんぺをはいて開墾作業などに従事しました。太平洋戦争に入ると女学生たちは軍隊手帳づくりのほか飛行機の尾翼づくりなど勤労奉仕に明け暮れ、週に授業が2回程度しかないこともまれではありませんでした。

戦争が終り、昭和23年の新制高校発足に伴い、谷村高女は廃校となりましたが、同校に寄せる卒業生の思いが結集し、20年余りの歳月を経た昭和55年に、廃校後始めて同窓会が開催されました。そして、親しんできた校歌の碑を旧女学校跡地に建立したいという熱い思いが結実し、昭和56年、校歌碑の建立に至りました。



戦時中の勤労奉仕作業

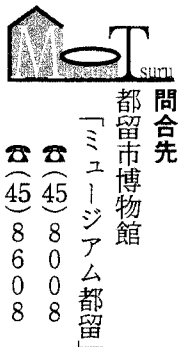


谷村高等女学校校舎



校歌碑（現都留市役所庁舎前）

今回の展示会では、童謡・民謡詩人の巨匠、野口雨情の作品群と共に、実行委員会によって収集された様々な資料が展示されております。かつての女学生達が過ごした日々の思いを感じていただければ幸いです。



☎(45) 86008

☎(45) 80008

「ミュージアム都留」

協力 都留市合唱連盟  
問合先 都留市博物館

会場 当館

エントランスホール

野口雨情の作品ほか、懐かしい童謡を歌います。事前の申し込みは必要ありません。お気軽にご参加ください。  
日時 5月6日・20日  
6月3日・10日  
午後1時30分  
午後2時30分

童謡を歌う会 (全4回)

会期	6月24日(日)まで (会期中展示替えがあります)
開館時間	午前9時～午後4時30分 (入館は4時まで)
最終日のみ	午後7時まで開館
休館日	毎週月曜日・第三火曜日
入館料	一般 600円(420円)
	高校・大学生 400円(280円)
	小・中学生 200円(140円)
	(内は、20名以上の団体料金)